

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191700093		
法人名	(有)ファミリーライフ		
事業所名	グループホーム楽々荘		
所在地	鴻巣下谷1448-1		
自己評価作成日	令和3年10月5日	評価結果市町村受理日	令和3年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの気持ちに寄り添った介護に努める。長期間のコロナ禍でADL低下の軽減に努める。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「家庭的」「社会の一員」「一人一人を大切に」をキーワードに、自宅で生活の延長としてそれぞれが役割を持ちながら生活できることを大切に支援されている。コロナ禍により活動の機会が減少する中、様々な工夫を凝らし入居者の機能低下を防止する取り組みがなされている。
 ・運営推進会議は、現在は外部メンバーを含まず、職場内で様々なテーマを取り上げ、改善案などの話し合いが行われているが、今後は、外部メンバーに職場内の話し合いの議事録を配布することや、以前の形で開催する方向で検討されている。
 ・目標達成計画については、年2回消防署立ち合いのもと入居者の参加も得て避難訓練が実施され、備蓄品の整備にも努められたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関入り口とホール内に掲示して、常に職員の目届くように心掛けています。	「家庭的」「社会の一員」「一人一人を大切に」などのキーワードをもとに理念が作成され、自宅での生活の延長になるように「家庭的であること」に注意が払われている。職員間のミーティングでも理念についての確認が随時行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周りを散歩しながら、地域の方たちとの交流を図るように努める。	感染症防止から今までのように地域と交流することはできないが、散歩時に子供達と交流を楽しまれたり、農産物直売所に出かけ、花のオアシスのひまわり畑鑑賞などの機会に地域との付き合いがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で2年間交流を持つ機会がなく、散歩時に時々会うくらいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で外部からの参加無しでの運営推進会議を行っています。	感染症予防対策上、現在は外部メンバーを含まず、職場内で様々なテーマを取り上げ、改善案などの話し合いが行われている。今後は、外部メンバーに職場内の話し合いの議事録を配布することや、以前の形で開催する方向で検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍重視の為、最小限に努めています。	日常の困ったことや対応に迷う点などの相談は随時行われている。また、コロナ禍での給付管理についての確認やワクチン接種、PCR検査などの情報収集や問い合わせなど連携を図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の研修会をミーティング前後などで有効活用しながら行っている。	3か月毎にミーティングでの勉強会が実施され、言葉による虐待や入居者個々への対応方法などを話し合い、拘束に頼らないケアを心掛けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や、着替え時に皮膚の状態や、身体の異変等の気づき注意しながら共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要を感じた時に、担当者会議を行い、対応する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前には、説明を充分に行い理解・納得をしていただける様努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口をもうけて、家族からの要望や苦情は何時でもお話しをお受けして、ミーティングに反映されています。	入居者から「外に連れて行って」、「買い物に行きたい」などの要望があり、ドライブに出かけるなど対応がなされている。家族とは面会時などに話し合いを行い、特に新規入居者の家族とは生活に対する要望などを聞き取りケアに活かせるよう取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は、何時でも受け入れ、ミーティング時にどんな事でも共有しながら、意見交換し皆さんで決める様にしている。	「業務を遂行するのは職員」との考えに立ち、ミーティングでは「こうしたらどうか」との職員意見を聴き、事業所全体に反映されている。イベントやレクリエーション企画などでは職員からのアイデアが取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境に心掛け無理のない勤務環境を把握し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングが出来るようにローテーションを調整し、職員のスキルアップを支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で、リモートでのみ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネージャーが、本人・ご家族からの要望を聞きながら調査を実施し本人が安心できるサービスに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り調査を実施し、詳細に記録するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、本人と家族が必要としている支援を見極め、時には他のサービスを紹介したりするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話を同じ目線で行うようにして、共に関係を深めるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でしばらくの間出来ませんでした。一段落したら、家族に声掛けをしながらイベントを企画していきたいと思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自粛中ではありますが、対策を取りながら面会できる環境を設けております。	外部との付き合いが制限される中で、馴染みの映画のDVDを利用し、鑑賞会を楽しんでいただいている。また、家族や友人に絵手紙や年賀状を送られる入居者もおられ、馴染みの方々との付き合いが途切れないよう支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業・ゲーム・体操・雑談等を行い、孤立を生まないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約を終了してしまっても、病院での様子を見に出かけたり、相談に応じたりするように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から、本人の思いや意向をくみ取り支援に生かしている。	「話しかけ」を基本にコミュニケーションを図り、本音の思いを聴きだすよう努められている。入居者を一人にしないよう常に話しかけ、動きや様子を良く観察することで、悩みなどを理解しケアに結び付けられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの背景や現状などをファイルにまとめ、職員が把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん個々に1日の過ごし方を細かく記録しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー・管理者・本人ご家族と共に話し合いアセスメントを作成し担当者会議を行い、意見交換をもとに介護計画のさくせいをする。	「家族や地域とのつながりを大切にする」ことを基本にケアプランが作成され、本人・家族の意向、居室担当者の意見や要望も聞き、「何をすべきか」が明確に具体的に記載されたケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、介護日誌に記入して、ミーティングなどにて話し合い、ケアに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	環境や体調に合った場所や距離を考えて、皆さんが楽しみにしているドライブを支援しています。また読書好む利用者さん達を図書館にお連れしたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医による診察を定期的に受けられるように支援しています。	日常的には週1回の訪問看護とそれぞれのかかりつけ医の受診が中心で、家族付き添いでの受診を基本とするが、職員が対応することも支援されている。入居者の病状や病名により病院間の連携も図られ、紹介などもスムーズに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日か木曜日のどちらかに訪問看護にて診察して頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	代表者が医師でも有、その医療機関との連携をとり適切な判断が下せるようになっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係者による話し合いを密に行い、家族に出来るだけ負担がかからないように取り組んでいます。	契約時に「看取りはできない」ことなどの指針を伝え、入居者・家族にも理解をいただいている。重度化についてもぎりぎりまで診る方向で対応され、その後については医師にも相談し、家族との話し合いのもと事業所としてできる最善の方法で支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	代表者が医師なので連絡を取り指示を仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、災害対策に取り組んでいます。	年2回、消防署の立ち合いでの訓練を実施され、全職員が必ず参加できるよう図り、入居者にも参加をいただき、避難訓練、通報訓練、さらに初期消火訓練などが行われている。また、水や非常食、オムツやトイレットペーパーなどの備蓄品の整備にも努められている。	災害対策への強化意識が高まっていることから、市からの情報をもとに災害別の対応マニュアルの作成整備にあたり、災害対策のさらなる向上に繋がれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には、性格・背景を踏まえた上で の親切で丁寧な対応を心掛けています。	入居者を傷つけるような言葉遣いやマイナスの 表現をしないように注意がなされ、常に優し い声かけと「さん」付けの呼びかけに心掛け られている。恥じらいや自尊心を大切に、プ ライバシーの確保にも取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者さん達希望は出来る限りかなえる様 に心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、職員側の都合を押し付け ずに、出来る限り希望に添える様にしていま す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	定期的に訪問美容をおねがいしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の前後にはテーブル拭きやお茶入れも こうたいで出来る方をお願いしている。	日常の食事に加えて「野菜弁当」や季節の食 物を取り入れた食事が提供されている。希望 に応じて朝のパン食の回数を増やしたり、誕 生日には好きな料理をリクエストしていただく など、食べる楽しみを工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事作りの際食事の量や栄養バランスが確 保出来る様に心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	起床、朝食、昼食、夕食後口腔ケアの声掛 けや誘導を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入して、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、気持ちの良い排泄が出来る様に支援しています。	排泄チェック表による定時誘導を中心にトイレでの排泄を基本に支援されている。夜間は睡眠を優先する方がおられるなど、それぞれの入居者に合わせた適切な方法で対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での工夫を行ったり、体操や散歩に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週3回の入浴を楽しんで頂き、利用者さん達のお部屋の順番で入浴できるように支援しています。	職員との1対1の個浴で入浴され、入浴の順番にも公平感があるよう配慮されている。入居者の状態に合わせて職員二人での対応や入浴中の体調面のチェックを行い、身体の傷や爪の状態を見るなどに努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後には体調に応じて休息して頂く様に心掛けています。又夜間に響かないように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の詳細は個々のファイルにあり、服薬の支援と症状の変化は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある方や得意としている方には、やれる事はやって頂き、役に立っていると言うやりがいの気持ちを持っていただけるように心掛ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中ですが、配慮しながらのドライブなどに参加する機会を多くして自然を感じる時間を大切にしています。	外出機会に制限がある中、庭にテーブルを出して日光浴をしながらお茶を飲んだり、畑で野菜作りを職員と一緒にするなど、できる範囲で外出が楽しめるよう支援をされている。また、ひまわりやコスモス、菊祭り見学などにも出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、施設での金銭所持は有りませんが、買い物に出かけた際、お支払の体験することもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限りの携帯所持は控えていただける様にお話しさせています。いつでも電話できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	くつろぎの空間を工夫しながらホールにいても季節感を取り入れた飾付けに心掛けています。	天井が高く、ゆったりした共用空間が広がり、入居者はテレビの前に集まったり、広いホールでは歩行訓練やゲームを楽しむなど、思いおもいに過ごされている。また、掃除機かけなど職員と一緒にいき、清潔感のある環境整備をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファでくつろいで読書や新聞を読んだり、日向ぼっこもできるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを自由に持ち込むことが出来、居室・ホールの掲示物も利用者さんと共に作ったり飾り付けするように心掛けています。	ラジオ、鏡台や化粧品など、それぞれがこだわりを重視したものが持ち込まれ、居室担当職員を中心に季節の模様替えや備品管理が行われている。掃除機かけや床掃除など職員と一緒にいき、居心地の良い居室づくりをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を付けトイレには使用中、空きの明記、入浴日には入浴中の札を使用しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム楽々荘

作成日: 令和 3年 12月 8日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策への強化意識が高まっていることから、災害対策の更なる向上	災害別の対応マニュアルの作成	災害対策に対するスタッフの取り組み方の知識習得やスキルアップを図る。	12ヶ月
2	20	一人一人の力を活かした、できることの支援	掃除、食事の支援や外でのお花植えや、野菜作りの支援	入居者様が必要とされている思いと、充実した日々の生活。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。